

現状から見える課題と指導事項（案）

死亡の状況	発症登録の状況
<p><b>&lt;心疾患&gt;【資料 2】</b></p> <p>令和 5 年の年齢調整死亡率(平成 27 年モデル人口により算出)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・男性 213.2 (全国 201.6)</li><li>・女性 118.3 (全国 111.8) ※全国値は人口動態統計（厚生労働省）</li><li>・男性の年齢調整死亡率が増加傾向にある。(R4:199.7、R3:191.3)</li><li>・死亡内訳では男女ともに心不全が最も多い。</li></ul> <p><b>&lt;脳血管疾患&gt;【資料 2】</b></p> <p>令和 5 年の年齢調整死亡率(平成 27 年モデル人口により算出)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・男性 108.2 (全国 89.8)</li><li>・女性 69.6 (全国 53.2) ※全国値は人口動態統計（厚生労働省）</li><li>・死亡内訳では男女ともに脳梗塞が最も多い。</li></ul> <p><b>&lt;がん&gt;【資料 2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和 5 年の年齢調整死亡率(平成 27 年モデル人口により算出) 男性 394.1 (全国 376.5) 女性 202.3 (全国 193.4) ※全国値は人口動態統計（厚生労働省）</li><li>・令和 5 年の 75 歳未満年齢調整死亡率(昭和 60 年モデル人口) 男女計 69.8 (全国 65.7) (全国順位 38 位 (前年 29 位)) 男性 86.6 (全国 79.1) (全国順位 41 位 (前年 24 位)) 女性 54.3 (全国 53.3) (全国順位 31 位 (前年 32 位)) ※出典：「がん情報サービス」(国立がん研究センター)</li><li>・令和 5 年の部位別 75 歳未満年齢調整死亡率(昭和 60 年モデル人口により算出) 胃がん 男性 9.6 (全国 8.4) 女性 3.2 (全国 3.3) 肺がん 男性 22.3 (全国 17.8) 女性 5.5 (全国 5.6) 結腸がん 男性 7.2 (全国 7.2) 女性 4.9 (全国 4.9) 直腸がん 男性 5.4 (全国 5.1) 女性 3.2 (全国 2.3) 子宮がん 女性 5.3 (全国 5.1) 乳がん 女性 9.8 (全国 10.0)</li><li>・令和 5 年の部位別死亡割合(上位 3 位) 男性 肺がん 25.5%、胃がん 12.1%、大腸がん 11.7% 女性 大腸がん 17.1%、肺がん 13.7%、膵臓がん 13.1% ※出典：「人口動態統計」(厚生労働省)</li></ul>	<p><b>&lt;急性心筋梗塞（令和 5 年）&gt;【資料 3】</b></p> <p>○発症登録数：1,304 人（男性 995 人、女性 297 人）※性別不明 12 人</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・男性は 50 代から発症数が急増、30～40 代の発症例も少なくない。</li><li>・発症者（全年代）の 72.1%が高血圧を、47.2%が喫煙習慣を、39.4%が糖尿病を有している。</li><li>・喫煙習慣については 40 代以下の発症者の 78.7%が有しており、全年代で見ると若いほど割合が高くなる傾向にある。</li></ul> <p><b>&lt;脳卒中（令和 5 年）&gt;【資料 4】</b></p> <p>○脳内出血登録数（県内） 1,237 人（男性 668 人、女性 569 人）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・発症年齢中央値は 73 歳</li><p>○脳梗塞登録数（県内） 3,921 人（男性 2,272 人、女性 1,649 人）</p><li>・発症年齢中央値は 79 歳</li><li>・脳梗塞の発症数が増加している。</li><p>○くも膜下出血登録数（県内）385 人（男性 115 人、女性 270 人）</p><li>・発症年齢中央値は 68 歳</li></ul> <p><b>&lt;がん（令和 2 年）&gt;【資料 5】</b></p> <p>○がん罹患数</p> <p>総数 20,092 件（R1 20,779 件） 男性 11,237 件（R1 11,595 件） 女性 8,855 件（R1 9,184 件）</p> <p>○年齢調整罹患率（基準人口：世界人口）</p> <p>男性 346.2 (全国 323.7) (R1 355.9) 女性 312.5 (全国 303.3) (R1 322.9)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前年と比較し、わずかに減少している。</li><li>・全国と比べて年齢調整罹患率が高い。</li><p>○部位別罹患割合（上皮内がんを含む）</p><li>・男性 大腸 19.0%、胃 15.3%、肺 13.8% ・女性 乳房 22.0%、大腸 17.3%、子宮 10.4%</li><p>○年齢階級別罹患状況</p><p>男性：30～79 歳は大腸がん、80 歳以上は胃がんが多い。 女性：15～39 歳は子宮がん、40～69 歳は乳がん、70 歳以上は大腸がんが多い。</p></ul>



課題	強化すべき対策	市町村等への指導事項（案）
<p><b>&lt;心疾患&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・年齢調整死亡率は男女ともに全国値を上回っている。</li><li>・男性の年齢調整死亡率が増加傾向である。</li><li>・発症者の約 7 割が高血圧、約 4 割が喫煙、糖尿病を有している。</li><li>・40 代以下の若い世代の発症者は、他の年代と比べて喫煙を有する割合が高い。</li></ul> <p><b>&lt;脳血管疾患&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・年齢調整死亡率は男女共に全国値を大きく上回っている。</li><li>・脳梗塞の発症数が増加している。</li></ul> <p><b>&lt;がん&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・がんの 7 5 歳未満年齢調整死亡率は男女ともに全国値を上回っている。</li><li>・令和 2 年のがん罹患数はわずかに減少しているが、年齢調整罹患率が全国と比べて高い。</li><li>・部位別死亡割合では、肺がん、大腸がん、胃がんが高く、また、罹患においては大腸がん、胃がん、乳がんが高く、引き続きがん検診及び要精検者の受診勧奨が重要である。</li></ul>	<p><b>○生活習慣病の予防</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・高血圧や糖尿病患者数の減少</li><li>・適正体重の維持</li><li>・減塩及び野菜摂取量の増加</li><li>・生活習慣病のリスクを高める飲酒量の是正</li><li>・身体活動・運動量の増加</li><li>・喫煙の健康影響に関する知識の普及</li><li>・禁煙支援</li><li>・地域の健康課題の実態や特性を踏まえた保健事業の展開</li></ul> <p><b>○早期受診・早期治療の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・セルフチェック及び疾患の兆候に関する認知度の向上</li><li>・発症時の対応に関する理解度の向上</li><li>・性・年代に応じた健診・検診の必要性に関する理解度の向上</li></ul>	<p><b>【生活習慣病予防のためのポピュレーションアプローチの強化】</b></p> <p>（１）循環器疾患及びがんを予防する生活習慣の普及啓発</p> <p>適正体重の維持、減塩、野菜摂取量の増加、健康に配慮した飲酒、身体活動量の増加、禁煙等、循環器疾患やがんを予防する生活習慣についての普及啓発や環境整備に引き続き取り組むこと。</p> <p>（２）受動喫煙防止対策の推進と禁煙支援</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・若い世代から、喫煙による循環器疾患やがんへのリスクを含めた普及啓発を実施するとともに、受動喫煙防止の啓発及び環境整備の強化に努めること。</li><li>・禁煙意思のある喫煙者へは、禁煙支援マニュアルに基づいた禁煙の実行・継続につながる効果的な保健指導を実施すること。</li></ul> <p>（３）データ利活用による効果的な保健事業の展開</p> <p>がん登録データやK D Bデータの分析・活用を更に進め、地域の特性を踏まえた保健事業等の効果的な実施に努めること。</p> <p><b>【生活習慣病の早期受診・早期治療に向けた普及啓発の強化】</b></p> <p>（１）セルフチェック及び疾患の兆候に関する普及啓発</p> <p>循環器疾患及びがんに係るセルフチェックや兆候について周知するとともに、気になる状態や症状が続く場合は、次の健診・検診を待たずに受診するよう周知を図ること。</p> <p>（２）発症時の対応に関する普及啓発</p> <p>早期治療により救命可能な疾患の初期症状と対応について住民に普及啓発を行うこと。</p> <p>（３）性・年代に応じた健診・検診の普及啓発</p> <p>特定健診や各種がん検診の必要性について、対象に応じた普及啓発を行うこと。</p>